

神戸大学附属図書館オンライン目録サービス 利用マニュアル

神戸大学附属図書館情報システム掛
石定 泰典

0 はじめに

このマニュアルは、神戸大学附属図書館オンライン目録サービス（以下、OPAC と略記）をご利用いただくために必要な事柄をまとめたものです。

マニュアルの構成は以下のとおりになっています。

1. 一般的事項

- 1) この OPAC システムについて
- 2) OPAC システムへの接続方法
- 3) 漢字コードについて
- 4) 運用時間について
- 5) その他

2. 検索の方法

- 1) 概説
- 2) カタカナキーワードのローマ字入力の方法
- 3) 前方一致検索

3. コマンドの説明

- 1) コマンドの種類
- 2) FIND コマンド
- 3) DISPLAY コマンド
- 4) AND コマンド

- 5) OR コマンド
- 6) # コマンド
- 7) HISTORY コマンド
- 8) HELP コマンド
- 9) END コマンド

4. キーワードの種類と形式

- 1) キーワードの種類
- 2) キーワードの一般形式
- 3) タイトル（書名）キーワード
- 4) 著者名キーワード
- 5) 重要語キーワード
- 6) 巻号キーワード
- 7) ISBN
- 8) 請求記号（分類）キーワード
- 9) その他

1 一般的事項

1) この OPAC システムについて

この OPAC（Online Public Access Catalog）システムは、神戸大学附属図書館、医療技術短期大学部（医学部保健学科）及び経済経営研究所で所蔵している図書の日録データベースをネットワーク経由で検索できるよう開発したものです。

附属図書館では、平成元年度から日録情報のデータベース化を開始し、その後、平成 4 年度からは遡及入力も順次進めていますので、平成 6 年 11 月現在で、40 万冊余りのデータが蓄積されています。

日録データは、先ず、事務処理用のメインフレームである、ACOS システム 3400 で作成され、1 週間ごとの増加分を総合情報処理センターのメインフレーム ACOS システム 3900 に移し、3900 上でこの OPAC システムを提供しています。従って、最大 1 週間の遅れは生じますが、ほぼ最新の日録情報を研究室などから検索することができます。

2) OPAC システムへの接続方法

このシステムは、S3900 で運用されていますので、ネットワークに接続された PC やワークステーションから S3900 へログインして下さい。端末エミュレータとしては、最も一般的な telnet を想定しています。

S3900 の IP アドレスは 133.30.10.10 です。telnet プロンプトで以下のようにすれば接続できます。

```
TELNET> OPEN 133.30.10.10
```

接続ができれば、S3900 (以下、ACOS という) からユーザ ID を聞いてくるので OPAC 用のゲスト ID を入力します。

```
USER-ID - OPAC
```

続いてパスワードの入力要求があるので、同様に

```
PASSWORD--
```

```
OPAC
```

そうすると、自動的にシステムが起動します。後は OPAC システムから出される指示に従って、検索を行って下さい。検索が終了すれば、自動的に ACOS との接続が切られます。なお、何らかの事情で、ブレイク信号を送った場合にも、自動的に接続が切られてしまいます。その前に、テンポラリーファイルを削除してもよいかという問い合わせがありますので、CR で応えてください。

3) 漢字コードについて

このシステムは、ACOS 上で運用しています。漢字コードとしては、NEC の JIPS コードが使われていますが、JIPS コードは特殊な記号を除いて、ほぼ新 JIS コードと同じです。従って、漢字コードは新 JIS に設定して下さい。

PC 版 telnet では、何らかの方法で漢字コードが設定できるようになっているはずですので、使用されているソフトのマニュアルを参照して下さい。ワークステーションでは、kterm から telnet を起動するのが一般的と思われます。この場合には、何もしなくても、漢字は正しく表示されるはずですが、このシステムでは、表示する内容に半角カタカナが含まれています。ワークステーションでは、半角カタカナはめったに使用しないと思われませんが、字化けが起きます。これを回避するには、ACOS に接続する前に、kterm の漢字コードを shift-jis (既定値は euc) に切り替えておいて下さい。

ダウンロードした場合には、やはり JIS コードになっていますので、字化けしてしまいます。nkf など、漢字コードを変換するフィルターがありますので、コード変換を行って下さい。

4) 運用時間について

ACOS の TSS サービス時間帯ならば、いつでも利用できますが、ACOS のサービス時間帯は、季節によって変動します。総合情報処理センターからの広報にご注意下さい。

なお、時にデータベースの再編成など、メンテナンスのために利用できないこともあります。その場合には、OPAC システムを起動した時に、メッセージが出されます。また、毎週水曜日には、1 週間分のデータの追加をするため更新処理をしています。更新期間中も検索は可能ですが、更新終了間際にアクセスするとエラーになることがあります。少し時間をおいてから、再度検索してみてください。

5) その他

このシステムについてのご質問、ご意見やバグなど、お気づきの点がありましたら、下記までご連絡をお願いします。

附属図書館情報サービス課情報システム掛

TEL : 内線 3955 直通 (078) 803-0435

FAX : 内線 3871 直通 (078) 803-0437

E-mail: kobelib@icluna.kobe-u.ac.jp

2 検索の方法

1) 概説

このシステムは、図書館に設置されている検索用端末や従来から運用されている KLOC とは異なり、無手順の通信ソフトでの利用を前提としています。従って、検索は全てコマンドを入力することによって行います。

OPAC が起動すれば、このシステムのプロンプトである、" >>" が出ますので、下の例のように検索を進めて下さい。なお、コマンドなどに使用するアルファベットは、大文字、小文字のいずれでも結構です。和書を検索する場合には、検索のためのインデックスに半角カタカナが使われています。半角カタカナが入力しにくい環境では、ローマ字で入力できるようにしています。

例) >> FIND NETWORK

("NETWORK" というキーワードをもつ図書を探します。)

#1 85 titles found (FIND NETWORK)

(該当するレコードが 85 件ヒットし、検索集合番号 1 として保存されました。)

>> FIND COMPUTER

(少し件数が多すぎるので、"COMPUTER" というキーワードをもつ図書を探すことにします。)

#2 525 titles found (FIND COMPUTER)

>> AND #1,#2

(検索集合の1と2の論理積をとることによって、"NETWORK"と"COMPUTER"の両方のキーワードをもつ図書を探することができます。)

#3 17 titles found (AND #1,#2)

(17件あることが分かりました。)

>> DISPLAY 1-5

(まずまずの件数なので、1件目から5件目を表示します。)

---- 以下略 ----

検索の結果は、上の例のように、検索集合番号 (" # n" の "n" が番号を表しています) とヒット件数、及びコマンドラインのエコーとで構成されています。そして、この検索集合番号は、後に論理演算のために利用されます。

2) カタカナキーワードのローマ字入力の方法

半角カタカナが入力できない、あるいはしたくない場合には、ローマ字で入力して下さい。検索ソフトの側でカタカナに変換して検索を行います。

カタカナ変換させたい部分を " @ " または " % " で囲んで下さい。ローマ字の綴り方は、へボン式でも訓令式でも変換されるようになっています。

例) >> FIND @NATSUME SOUSEKI@

(「夏目漱石」が書いた図書または「夏目漱石」について書かれた図書を探します。)

#4 157 titles found (FIND ナツメ ソウセキ)

変換結果は、上の例のようにヒット件数とともにエコーされるので、0件だった場合には、綴りを確認して下さい。注意点としては、次の3点です。

- 「ウ」は、明示的に "U" と綴る — トウキョウ → @TOUKYOU@
- 「ン」は、"NN" と綴る — キンダイ → %KINNDAI%
- 長音「ー」は、"- " (ハイフン) とする — コンピュータ → %KONNPUU-TA%

3) 前方一致検索

検索の手がかりとなるキーワード、例えばタイトルや著者名が途中までしか分からないこともあります。また、キーワードが言葉(書名の中の重要語)の場合、単語の単位で与えられていますが、日本語では、単語の区切りが必ずしも明瞭でなく、いわゆる分かち書きの単位(概ね、独立させて意味を持ちうる最小単位と考えて下さい)で与えられます。ただ、これも自明なものとはとても言えず、どこで区切ってよいか分からないこともよくあります。

このような時には、前方一致検索をして下さい。洋書の場合には、単数形と複数形を同時に検索することもできるので、網羅的な検索をするという効果もあります。前方一致検索は、キーワードの後ろに "\$" を付けます。これによって、そこから後ろが何であってもヒットするようになります。

例) >> FIND @KEIZAIBUNNSEKI\$@

(「経済分析～」というタイトルの図書を検索します。)

>> FIND キョウイク\$

(「キョウイク」は勿論のこと、「キョウイクガク」、「キョウイクシ」、「キョウイクロン」などをキーワードとしてもつ図書が検索されます。)

>> FIND ECONOM\$

(上と同様に、「ECONOMY」、「ECOMOMIES」、「ECONOMIC」、「ECONOMICS」などが全て検索されることとなります。)

3 コマンドの説明

1) コマンドの種類

このシステムで使用するコマンドは、8種類あります。以下にその概略を説明します。

- FIND — 検索を行うための、一番基本となるコマンドです。
オペラントとして検索条件を与えます。
- DISPLAY — 検索結果を表示させるためのコマンドです。オペラントとして表示モードと表示させるレコード番号を与えます。
- AND — FIND コマンドで検索した結果は、検索集合として保存されます (“#n” の “n” が集合番号を表している)。
2つの検索集合の論理積を作るためのコマンドです。
- OR — 同じく2つの検索集合の論理和を作るためのコマンドです。
- #n — DISPLAY コマンドは最新の検索集合(カレント集合)から表示を行うので、過去の検索集合をカレント集合としたい場合に用いるコマンドです。
- HISTORY — 検索履歴を表示するためのコマンドです。検索履歴は20件まで保存されます。
- HELP — コマンドの説明などをオンラインでみるためのコマンドです。
- END — 検索を終了させるコマンドです。

なお、これらのコマンドは、他のコマンドと区別できる範囲で省略が可能です。例えば、FIND ならば、「FIND」=「F」=「FI」=「FIN」となります。

2) FIND コマンド

検索を行うコマンドで、オペラントとして検索条件を与えます。検索条件には、単純条件と複合条件とがあります。単純条件は、ただ1つのキーワードだけを与えるものです。キーワードにも、その種類を限定するプレフィックス付きのものと、種類を問わないプレフィックスな

しのものがあります。複合条件は、2つのキーワードを与えて、その論理積または論理和を一度に求めるものです。キーワードの種類とその形式については、次の章で詳しく述べます。

FIND コマンドの使い方を例を使って説明します。まず、単純条件での検索の場合です。

例) >> FIND ニホンブンガクノレキ または @NIHONNBUNNGAKUNOREKI@

(「日本文学の歴史」という図書を探しています。このようにタイトルがはつきりしている場合には、タイトルで検索するのが確実です。)

>> FIND アミノ ヨシヒコ または %AMINO YOSHIHIKO%

(「網野善彦」さんの著書を探します。著者の名前が分かる時には、著者名で検索して下さい。)

>> FIND コウベ または %KOUBE%

(「神戸」をタイトルの中にもっている図書を検索します。この場合には、プレフィックスなしでキーワードを与えているので、タイトルが「神戸」の図書も一緒にヒットします。)

次に、同じく単純条件ですが、プレフィックス付きのキーワードを与える例です。プレフィックスには、以下の6種類があります。

T	—	タイトル(書名)	A	—	著者名
W	—	重要語	V	—	巻号
I	—	ISBN	C	—	分類

プレフィックスは、" T."などのように、ピリオドをはさんでキーワードの前に付けます。

例) >> FIND T. ケイザイガク または T.@KEIZAIGAKU@

(プレフィックスなしで検索すれば、検索語の種類に関係なく検索してくれるので、網羅的な検索ができます。しかしながら、「経済学」は重要語としても切り出されていますので、ヒット件数が多くなり、タイトルが「経済学」である図書だけを選び出すのに苦労します。"T."のプレフィックスを付ければタイトルが「経済学」の図書だけが検索されます。)

複合条件の検索は、2つのキーワードを、".AND." または ".OR." で結合し、一度に両者の論理積や論理和を求めます。

例) >> FIND T. ゲンダイケイザイガ .AND. A. サワ タカミツ

(タイトルが「現代経済学～」である図書は多いので、著者が「佐和隆光」さんであるものだけを探しています。)

>> FIND W.%TAYOUTAI% .OR. W.%ISOU%

(重要語として「多様体」または「位相」をもつ図書を探しています。)

>> FIND T.ANNUAL REVIE .AND. W.CYTOLOGY

(タイトルが、"Annual review ..." で、さらに重要語として"cytology"を含む図書を検索します。)

複合条件の 1 つめのキーワードのかわりに、検索集合を置くこともできます。直前の例は "Annual review ..." なので、同一タイトルの図書が多数ヒットすることもあります。求める巻号があるかどうかを調べたい場合には、次のようにします。

例) >> FIND #8 .AND. V.56

(直前の検索結果の集合番号が 8 だったとして、56 巻があるかどうかを調べています。つまり、検索条件を 1 つずつ加えて、絞り込みを行っていることになります。)

3) DISPLAY コマンド

DISPLAY コマンドは、最新の検索集合から、検索結果を取り出して表示します。表示のモードが 3 種類あり、それぞれ次のようになっています。

- 通常モード — 書誌情報 3 行と所蔵情報を表示
- 詳細モード — 書誌情報全てと所蔵情報を表示
- 簡略モード — 書誌情報のみを 2 行だけ表示

DISPLAY コマンドでは、表示するレコード番号と共に表示モードを指定することができます。何も指定しなければ、通常モードになり詳細モードは "D" を、簡略モードは "A" を指定します。

レコード番号は、番号が連続する場合には、ハイフンでつなぎ、連続していない場合にはカンマで区切ります。ハイフンでつないだ番号同士をカンマで区切って指定することもできますが、カンマは 2 つまでしか許されません。

例) >> DISPLAY 1-4 (1 番目から 4 番目までを通常モードで表示します。)
>> DISPLAY A 1-10 (1 番目から 10 番目までを簡略モードで表示します。ヒット件数が多い時に通覧するには便利です。)
>> DISPLAY D 2,5-8 (2 番目と 5 から 8 番目を詳細モードで表示します。)

4) AND コマンド

AND コマンドは、それまでの検索で作られた 2 つの検索集合の論理積を作るコマンドです。オペランドとして、2 つの検索集合の番号を与えます。集合番号には、"#" を付け、カンマで区切ります。

AND コマンドで作られた検索集合には、新しい検索集合番号が与えられます。

例) >> AND #2,#4 (集合番号 2 と 4 の論理積を作ります。)

5) OR コマンド

OR コマンドは、それまでの検索で作られた 2 つの検索集合の論理和を作るコマンドです。オペランドとして、2 つの検索集合の番号を与えます。集合番号には、"#" を付け、カンマで区切ります。

OR コマンドで作られた検索集合には、新しい検索集合番号が与えられます。

例) >> OR #3,#5 (集合番号 3 と 5 の論理和を作ります。)

6) # コマンド

コマンドは、カレント検索集合を切り替えるコマンドです。検索結果を表示する DISPLAY コマンドは、カレント集合から表示するようになっているので、過去に検索した結果を再度表示したい場合には、このコマンドによって、その集合をカレント集合とします。

"# "という形で、カレント集合としたい集合の番号を指定します。これによって、切り替えられた集合には、新たな検索集合番号が与えられます。

例) >> #3 (3 番目の集合を再表示するため、カレント集合とします。)

7) HISTORY コマンド

HISTORY コマンドは、それまでの検索履歴を表示するコマンドです。検索を行えば、その結果がヒストリーテーブルに記録され、このコマンドによって表示されます。過去の検索結果を確かめたい時や、論理演算を行う場合に有効です。

検索履歴は、検索集合番号とヒット件数、及びその時の検索条件が表示されます。カレント集合には番号の前に "*" を付けて表示します。

ヒストリーテーブルは 20 件まで保存できるようにしています。画面の行数は 25 行が標準なので、1 画面で一覧できる範囲としています。20 件を越えるとテーブルクリアのメッセージが出されますので、"YES" と応えて下さい。

例) >> HISTORY

8) HELP コマンド

HELP コマンドは、検索の途中でコマンドの種類や入力の方法を参照するためのコマンドです。いくつかのオプションとともに使用します。

オプションの種類

- C — コマンドの概略説明
- F — FIND コマンドの説明
- D — DISPLAY コマンドの説明
- A — AND コマンドの説明
- O — OR コマンドの説明
- # — #コマンドの説明
- H — HISTORY コマンドの説明
- P — プレフィックスの説明

オプションなしで、単に "HELP" または "?" とすれば、HELP コマンドの使い方の説明が表示されます。

例) >> HELP D (DISPLAY コマンドの説明を表示します。)

9) END コマンド

検索システムを終了させるコマンドです。このコマンドが投入されると、検索を終了し、再び開始メッセージが出ます。

例) >> END

4 キーワードの種類と形式

1) キーワードの種類

この検索システムでは、検索のための手がかりとなるキーワードを与えています。キーワードには、いくつかの種類があり、それぞれ形式が決められています。また、キーワードの種類が、前章で説明した 6 つのプレフィックスに対応しています。

－ キーワードの種類 －	－ プレフィックス －
● タイトル (書名)	T
● 著者名	A
● 重要語	W
● 巻号	V
● ISBN	I
● 請求記号 (分類)	C

検索の際にプレフィックスを付けなければ、タイトルから巻号までの全てのキーワードを対象として検索を行います。プレフィックスを付ければ、そのキーワードだけを対象とします。なお、ISBN と分類に関しては、プレフィックスを付けなければ、そもそも検索の対象としません。

2) キーワードの一般形式

これらのキーワードは、半角のカタカナ、英大文字、数字、記号で与えられています。漢字やひらがなでは検索できません。タイトルから巻号までのキーワードは、最大 12 文字までで、それ以上入力しても無視されます。ISBN は 10 文字と決まっているので、10 文字です。各図書に付けられている請求記号 (普通は分類記号が先頭にきます) から 3 桁を分類として検索の対象にしています。一般的に言って、NDC (日本十進分類表) の 1000 区分に相当します。

和書では、タイトルや重要語のキーワードは、その読みをカタカナで与えています。但し、タイトルなどの中に、アラビア数字や英文字、記号類が現れた場合には、無理に読みを与えず、そのままの形としていますが、区切りの記号や引用符などは無視しています。

3) タイトル (書名) キーワード

タイトル及びシリーズ名の冒頭から 12 文字をタイトルキーワードとしています。和書と洋書では形式が異なります。

<和書>

タイトルの読みをカタカナで、先頭から 12 文字、間にスペースを置いたりせずにキーワードとしています。アラビア数字、英文字、記号類は、原則としてそのままです。カタカナで表記するとき、拗音や促音は小文字を使っています。また、外来語などに現れる長音は、長音符号を使っています。

例)	多国籍企業の経営行動	→	タコクセキキギョウノケ
	21 世紀企業活力への旅	→	21 セイキキギョウカツ
	BASIC プログラム入門	→	BASIC プログラム

<洋書>

洋書では、冒頭に冠詞がある場合には、冠詞を除いて 12 文字としています。単語の間にはスペースを置きます。数字はそのままとします。記号類も原則はそのままですが、単語の前後に来る区切り記号や引用符号、省略符号の類は無視しています。なお、ロシア語図書では、アルファベットに翻字したキーワードを与えています。

例)	The global economics system	→	GLOBAL ECONO
	U.S.-Japan relations	→	US-JAPAN REL
	Betriebs- und Wirtschaftsinformatik	→	BETRIEBS UND
	1992 and after	→	1992 AND AFT

4) 著者名キーワード

著者、編者、訳者などの人名や団体名のキーワードです。著者等が複数いる場合に、和書ならば 2 人まで、洋書ならば 3 人までが、キーワードになります。それ以上の場合は、最初の 1 人だけです。伝記や人物論では、対象となった人名のキーワードも作成しています。

<日本人名>

日本人名は、読みをカタカナで、姓と名の間にスペースを置きます。名の読み方がわからない時や、姓しか分からないような時には、姓の後ろに "\$" を付けて前方一致検索をすれば有効です。中国人名や朝鮮人名も日本人名に準じて、音読みをカタカナで与えますが、母国語読みが分かる場合はその形もキーワードになっています。

例)	赤川次郎	→	アカガワ ジロウ
	夏目漱石	→	ナツメ ソウセキ

<外国人名>

外国人名は原綴りです。たとえ翻訳書であっても原綴りになっていますので、カタカナ表記の外国人名ではヒットしません。姓の後ろにスペースを置いて名にイニシャル 1 文字の形としています。

例)	Paul Sameulson	→	SAMUELSON P
	ニーチェ著	→	NIETZSCHE F

<団体名>

団体が著者等になっている場合は、団体名が著者キーワードとなります。国内団体は読みを続けてカタカナで、外国の団体は原綴りで、単語の間にはスペースを置きます。タイトルのキーワードと同じ形です。団体名が上部組織と下部組織からなる場合は、12文字という制約があるため、上部組織名だけにしています。また、その団体がよく知られている略称をもっているならば、その略称も著者キーワードとしています。

- 例) 大蔵省証券局 → オオクラシヨウ
日本放送協会 → ニホンホウソウキョウカイ および NHK

5) 重要語キーワード

タイトル中の単語（和書では、分かち書きした単位）をキーワードとしています。但し、キーワードの個数が12個という制約があるため、すべての単語がキーワードになっている訳ではありません。その図書の主題を表しているような語、特徴をよく表している語から優先して取り出しています。従って、タイトルに含まれている語から、必ず検索できるという保証はありませんので、注意が必要です。

また、このキーワードは、単語単位で作成されています。洋書では単語の切れ目は明かでしょうが、和書では分かち書きの単位なので、それほど明かではありません。独立して意味をなす最小単位が単語であると考えて下さい。

- 例) 「経済分析の歴史」という図書ならば、「ケイザイ」、「ブンセキ」、「レキシ」というキーワードは作られますが、「ケイザイブンセキ」は作られません。

タイトル中に現れる単語を、そのままの形でキーワードとしています。従って、洋書の場合だと、単数形は単数形で、複数形は複数形のままです。格変化する言語では、格変化したままの形です。語尾が不明瞭な時には、前方一致検索で対処して下さい。

6) 巻号キーワード

年鑑ものなどは、年次を除いて、他のキーワードはすべて同一になってしまうのが普通です。従って、特定の年のものを探すのが困難になりますので、年次を巻号のキーワードとして与えています。その他、全集ものなどでも巻号で特定できると便利なので、巻号のキーワードを付与しています。

巻号は、アラビア数字で表現します。年鑑などの年次は、どのような表現になつていようと、西暦4桁になおしています。

- 例) 朝日年鑑 1994年版 → 1994
経済白書 平成4年版 → 1992
日本美術全集 第22巻 → 22

7) ISBN

図書に付けられている固有の番号である ISBN から検索できるようにしています。但し、プレフィックス付きでなければ、検索できません。

例) FIND I.4000065157 (ISBN が 4000065157 の図書を検索します。)

8) 請求記号(分類)キーワード

図書には配架されている位置を示す請求記号が付けられています。ほとんどの場合、請求記号は、その図書の内容を表す分類番号をもとにして決められています。従って、請求記号を使うことにより、分類のキーワードとすることができます。但し、現在は分類番号の与え方が、図書館によって異なる部分があるので、最大公約数として、先頭から 3 桁を分類として扱っています。日本十進分類表の 1000 区分に該当します。

分類キーワードもプレフィックス付きでなければ、検索できません。

例) FIND C.518 (「都市計画」関連の図書を検索しています。)

9) その他

この OPAC システムは、コマンドモードで動くため、そのままでは当てはまりませんが、従来の検索システムのマニュアルも、キーワードに関しては参考になります。以下のマニュアル類もご参照下さい。

- 「神戸大学図書検索システム利用マニュアル」(1989 年 11 月)
- 「神戸大学附属図書館オンライン目録サービス KLOC の御案内」(1991 年 4 月)
- 「図書検索システム利用の手引き」(1992 年 6 月)